
魔界戦記ディスガイア【転生に失敗するなんてあるんスカ!?!】

クルペッコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔界戦記デイスガイア 【転生に失敗するなんてあるんスカ!?!】

【Nコード】

N6460Q

【作者名】

クルペッコ

【あらすじ】

生きているときに罪を犯した者は死んだ後、その魂をプリニーと言う着ぐるみの中に詰め込まれ、天界、魔界へと出荷されて行くプリニー達は自分の罪と釣り合う分の仕事をし罪を洗い流すと赤い月の日に生まれ変わる為に旅立って行く

魔界での仕事を終え転生する事を心待ちにしていた、「アル(男)」は又、男として人間界に転生する筈だったが、何かの手違いで前世記憶を一部残した状態で約14歳の女として魔界の森の中にほ

っぽりだされてしまった、自分の事を思い出すため、今度はちゃんと転生するため、そして転生を失敗させてしまった奴らをボコボコにするために彼女(?)は様々な世界を迷走するのであった

《p r o l o g u e》（前書き）

前から書こうと思っていたデイスガイアの二次創作です、性転換があるので苦手な人は戻るボタンを連打！！！！！

デイスガイア4のフーカをイメージして書いてる部分もあるのでパクリだとかはNGです

《prologue》

? 赤い月 赤い月

罪を犯した者共の

汚れを清める

赤い月

今宵は誰が生まれ変わる今宵は誰が生まれ変わる？

不思議な歌が真夜中に響き渡る

夜空には怪しげに赤く光る月が佇んでいる

そんな真夜中にいくつもの小さな影が氷の山を登っていく、そして
頂上にたどり着くとそれを待って居たかのように赤いフードのよう
な者が頂上に舞い降りる、赤いフードは影に手をかざした後、いく
つもの白い光のような物を引き連れて静かに空に舞い上がっていっ
た……

プリニー一投目

☆月△日◇曜日

僕の名前はアル、プリニーです

プリニーになるときに記憶を抜かれたから前世の記憶は残っていないただ自分が男だったって事は覚えています

多分これが最後の自己紹介になると思いますなぜなら、なんとついに明日赤い月の日が訪れて僕は晴れて転送する事が出来るのです、ご主人のもとで仕事をしっかりとやって来た成果なのです！

やっぱり書き物って良いですね！口癖のゝッス！が付かないのも何だか良いものです

最後にこの僕の日記を見た人は出版とか考えちゃって下さい（笑）

ペンギンのぬいぐるみたいなた姿をしたプリニーと言う悪魔（衝撃に弱いので取り扱い注意）は筆を置き、赤い背表紙の本をパタリと閉じる

日記でアルと名乗ったプリニーは地面に藁が敷いてある馬小屋みたいな部屋をご主人に与えられそこに住んでいた、もちろん電気などは通っておらずろうそく一本の灯りの中である

プリニーには生きているときに罪を犯した人間の魂が入っておりその罪に見合う量の仕事をしなければならぬ天界ではお手伝いの量、魔界ではお金の量で転生出来るかがきまる、そして転生出来る様になると赤い月の日に死神達に転生させに連れていってもらうのだ

話を戻すが馬小屋で過ごしていたアルは明日の赤い月の日に転生する事が許されているようだ

その後、アルは藁に潜り込んでスヤスヤと深い眠りに落ちていった

それから約5時間後アルはむくりと起き上がり馬小屋を抜け出し何処かへ歩いて行ってしまった

プリニーニ投目（前書き）

自分の文章力の無さに溜め息が出ます O r Z

プリニー二投目

いきなり起き上がり外へでて行ってしまったアル空を見上げてみればさつきまで白く輝いていた月は一変し赤く不気味な色を放っているアルは次元の渡しし人と呼ばれる人物に話かけると時空ゲートをくぐり月渡しの雪原まで一瞬で移動した

肌を刺すような寒さの中アルはゆっくりと山のような場所の頂上を目指して歩いて行く

やっとの事で頂上にたどり着くと他のプリニー達は何匹もそこに立っていた、アルもみんなが集まっている所に歩いて行くと、まもなく空から赤いフードが舞い降りて来た、赤いフードには中身が入って居るわけでも無いのに人が入って居るかのように形をとどめている、通称、死神と呼ばれている者だ死神はアルを含めるプリニー達に手を翳す、するとプリニー達から光の玉がゆらゆらと抜け出して来る、光の玉が抜けると同時にプリニー達は只の布のようにフニャリとなりぺったんこになってしまった

死神はプリニー達から現れた光の玉を従え空に舞い上がって行った

プリニー三投目

光の玉となって空に登っていったアルはプリニーの体から抜け出した時に気を失っていた

ドサッ！

次にアルが目を覚めたのは地面に叩きつけられた衝撃だった
口に土の嫌な風味を感じながら、叩きつけられた時に打ったらしい頭を抑えながらゆっくりと立ち上がり周りを見渡す、周りは薄暗い森で人などが来る気配も無い

「いったゝ、転生してもこんな扱い受けるなんて聞いてないッスよ……」

この時アルは違和感を感じた、それはかなり声が高くなっている事、視線が高くなっている事だ
もしかと思い体を調べて見れば、継ぎ接ぎがあるペンギン人形では無く、人の体であることがわかった、さらにその体がすっぽんぽんである事、女の体である事がわかった、ただ鏡がある訳では無いので自分の姿はハッキリとは解らなかった

（これって、か・な・りヤバイ状況であるッスね……）

この事に気付いたアルは少し考えると何を考えたか丈夫そうな太い木の枝を拾って来ると森の中を散策し始めた
しばらく歩き回っているとゴーストと呼ばれている魔物を見つけた、ゴーストは緑色のトレンチコートを着て、フードを被った白い蛇みたいな奴で魔界で最もポピュラーな魔物だ、特に耐久値がある訳で

もなく簡単に倒せてしまう魔物だ

アルはゴーストに後ろから近づくとさっき見つけてきた木の枝を思いつき振り下ろした、その後何回も殴りまくりゴーストを表現し難いぐらいにぐちゃぐちゃにした後、ゴーストが纏っていたマントを引っ剥がしそれを着ることにした

(ブカブカッスね体に合わないッス)

そんな事を考えてはいたもののこれで寒さをしのげるとわかり余裕が生まれ、余裕が生まれた事によりある一つの事を思いついた

「ぺちやばい魔神なんて大っ嫌いッスー!!
ふうスッキリしたッスー」

同刻、某所にて

「っへくしゅ!」

「どうしたんですか? エトナさん? 風邪でも引きましたか?」

「いや、多分どこかのプリニーか何かが、あたしの噂か悪口言ってんでしょ、第一あたしが風邪引いたらその前にフロンちゃんがかかってると思うな」

「私は風邪なんて引きません! 愛の力です!」

「お前達! 何やってるんだ! 森の方向に巨大な時空の歪みが発生したんだぞ! 例の場所以外での時空の歪みが確認されたのは初めてなんだぞ! 地球からの宇宙戦艦ならまだしも別魔界の魔王が来てたりしたらどうするんだ!」

「大丈夫ですよその時はラハール殿下をその魔王に投げつけてでも逃げますから」

「お前は本当に俺様の家来なのか!!」

「まあ一応そうですね」

「一応とはなんだ!」

「まあまあお二人さん落ち着いてこんな時こそ愛を持って接するべきですよ

愛を持って接すれば別魔界の魔王だってきっと帰ってくれますって」

「……こいつのお花畑脳内は墮天使になっても変わらないらしいな……」

「殿下へ早く行きますよ」

「さっきまではお前が遅れていただろ!」

三人は騒ぎながら森の中に消えて行った

プリニー三投目（後書き）

ウサギ

「速報です、つい先ほど死神が一匹のプリニーの魂を落つことしたとの情報が入って来ました
まあたかなり損ないの人間の魂一個ですわざわざ騒ぐ必要は全くありません」

プレネール

「……………」

ウサギ

「続いてのニュースは地球でどのように窃盗に入るかを盗賊ギルドでNo.1の実力を誇る……………」

プツン

「計画は順調に進んでおります」

「そのかこれからもあいつの監視を頼んだぞ……………」

「ツハ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6460q/>

魔界戦記ディスガイア【転生に失敗するなんてあるんスカ!?!】

2011年3月4日11時52分発行